

# 松 風

令和4年11月18日発行  
発行 富山県立富山学園

「寄り添い」が「寄り添い」を  
生む富山学園

教頭 松原 弘芳

「寄り添い」というテーマで二つのエピソードを紹介します。

一つ目は、持久走のできごとです。A君は、中学校へ行かず、家の中でも時間が長く、運動する機会がほとんどなかった生徒です。自ら生活環境を変え、戦い始めたばかりです。

体育の時間に持久走を行っていたときのことです。中学生男子は1500m走に取り組みました。他の生徒たちが次々ゴールする中、A君は他の生徒に二周差をつけられ、ふらふらになって最後尾を走っています。あと残り一周となったとき、B君が伴走をし始めました。声をかけながら隣を走り、そのうちに先導をはじめました。また、C君も伴走を始め、声をかけ続けています。ゴールしたときは、周りの生徒たちはもちろん、富山学園、分校の先生方が自分のことのように喜びました。

B君、C君のA君に寄り添う姿に感動しつつ、そのような姿はどうして生まれたのだろうかと考えました。B君は運動神経がよく、学園のスポーツ活動の中心的

存在です。これまで野球やバレーボールでリーダー的役割を先生方に任されてきたことが彼のたくましさや優しさや育んできたのではないのでしょうか。C君はA君の世話係を任せられ、丁寧な清掃の仕方等、学園での生活についてA君にいろいろと教えていました。彼の行動からは、年下のA君に対しての責任感が感じられました。

二つ目は、介護に関わる講座のできごとです。

講師のKさんは、三十年以上介護に携わっておられ、県内はもちろん全国的に、実践はもちろんのこと、活動の啓発に努めてこられた方です。Kさんは、はじめは保育士を目指して進学するつもりだったのに、家の事情で進学をあきらめ、介護の仕事に就くことになったそうです。かなり不本意な仕事との出会いだったようです。ところが、就職後三か月でその仕事に魅了され、ここまできているとのこと。なぜ介護の仕事に魅了されるのか、その一例を熱く生徒たちに語ってくださいました。

ある車椅子生活のおばあちゃんが、痴呆の影響でトイレに行ったことを忘れ、頻繁にトイレに行きたがって困ると、職員からKさんに相談があったそうです。Kさんはその職員に、「歩くトレーニン

グになるから、(要望があったらトイレに)連れて行ってあげよう」と答えたそうです。そして、そのおばあちゃんはやがて自力歩行ができるようになったそうです。Kさんがおばあちゃんに「よかったね、歩けるようになって」と話しかけると、おばあちゃんはKさんの手を握って

「あなたのおかげだちゃ」と言われたそうです。この場面を話されるKさんは、目が潤み、声が震えていらつしやいました。

Kさんの講座に対するお礼の言葉で、B君は、「ほくもいつか人の役に立つ職業に就きたいと思いました」と訥々と話しました。普段人前で話すことが苦手なB君だけに、真摯でまっすぐな思いを感じました。

生徒が自立に向かう意志を膨らませ、資質や能力を向上させるには、先生方の手厚い「寄り添い」が不可欠です。学園では、普通なら保護者が行う保護や養育の役割を先生方が一丸となってその生徒に「寄り添い」ながら行っています。

先生方に寄り添われた生徒が、また他の生徒に寄り添っていく、またいつか家庭や社会で誰かに寄り添っていく、そのような姿が学園の文化であり願いです。一期一会の関係であるがゆえに、「寄り添い」が一層尊いものに思われるのです。

## 観桜会

4月5日、恒例の観桜会が開催されました。今年度は、春期日課中の開催となり、ちらほら桜が咲き始めた頃でした。昨年に引き続き、コロナ感染対策をしながら、ランチルーム前の外のピロティで4班に分かれ、バーベキュー形式で焼肉や焼きそば、おにぎりなどたくさんいただきました。曇り空で始まった観桜会でしたが、澄み渡る青空の下、みんなの笑顔がたくさん咲いた楽しい食事となりました。

食事の後は、今年一年の抱負を発表しました。野球大会やマラソンなどスポーツのこと、受験など勉強のこと、そして生活のこと、児童それぞれの目標を持って学園生活を送ろうという決意を見せてもらいました。

その後は、ソフトボールの交歓試合が行われ、大人も子どもも全力でボールを追いかけ、声を掛け合い、とても充実した時間を過ごすことができました。

(木下)

## 富山学園農場



富山学園に赴任8年目にして農場担当に初めてなりました。間接的にはこれまでも農場に関わってきましたが、直接農場を管理、運営していくのは初めてでしたし、農作物を育てる知識、技能も未熟でした。4月当初は農場関連のテキストを片手に薄い知識のもと令和4年度の農場が開始しました。

昨年度中に計画された野菜だけでも19畝4月中に作ります。まぜ夏野菜です。きゅうり、トマト、ナス、ピーマンは順調に育ってくれましたが、さつまいもがほぼ全滅してしまい、苗を買い直しまし

た。植えた直後に季節外れの寒い日が数日続いたのが原因ではないかとのことでした。チャレンジしたトウモロコシも虫の被害に遭い、壊滅状態となり、収穫量が少なく、児童たちで少しずつ分けて食べました。農場作業も植えて、収穫するだけでなく、土寄せ、追肥、間引き、継続した水やり等やることは山ほどあり、その一つ一つにできるだけ子どもたちと一緒にやることで、農作物の育ちや農作物の生産者の大変さの理解を深めていきました。もちろん収穫した農作物は自分たちで調理して美味しくいただきます。厨房で調理してもらい食事に出してもらったりもします。失敗もありましたが、たくさんのお実りを体感できた前半戦でした。

夏の後半には空いた敷地を開墾して蕎麦を植えました。9月には一面蕎麦の花が咲き、今までにない光景でした。10月に入り蕎麦の刈り入れも行い、今後脱穀して乾燥させて、12月末にはみんなまで蕎麦を味わえたらと思います。農場では秋冬野菜の大根がすくすくと育っています。大根はたくあんにする予定です。蕎麦やらたくあん

んやら後半戦も楽しみな農場活動です。一年通して実りを感じながら子どもたちと過ごせて結果的にはワクワクできています。素人ですが今後も農場でいろんなことに挑戦していきたいです。

(井澤)

## 野球



八対九、延長八回サヨナラ負け。八月三十日に岩手県で行われた全国大会準決勝、それが三月から取り組んできた富山学園の野球の最後でした。

今年は、三年ぶりに北越大会、全国大会が開催され、児童十三名と職員が三月から目一杯練習してきました。

北越大会は勝ち切る事が出来

ましたが、全国大会では一点が勝負を決めました。足りなかった一点、守れなかった一点、奪えなかった一点。今年のチームを表しているなど今でも思います。

ただ、子どもたちは立派に戦ってきました。大事な時期にチームが崩れた中、キャプテンがチームを支えました。エースがチームを背負ってマウンドに立ちました。小学生がチームに笑顔と元気を与えました。女子児童の成長に勇気ももらいました。また、失敗を成長につなげるためにもがく児童、大人も子どもも様々な葛藤を抱え、悩み、汗を流し、強く成長するために日々の練習に尽くしました。



ゲームセットの瞬間、グラウンドに泣き崩れる子どもたち。その姿は今でも忘れることは出来ませ

ん。ただ、この悔しさを次への課題として、大きなバネの力に変え、大きく成長してほしいと思います。最後に協力してくれた学園の先生方、分校の先生方、OB・児相・外部職員の皆さま、応援して下さい。ありがとうございました。ありがとうございました。

(小泉)

### 夏季日課(男子寮)

日課は、午前中に作業と学習、午後からは特別活動(版画作成)、スポーツ(野球)を基本として過ごしました。

作業は、昨年度に引き続きグループごとに作業を分担し(コミュニケーション、野球ベンチの増設、水場の整備、野球ベンチの補修)計画的に進められるよう取り組みました。暑い中よく頑張っていたと思います。特別活動(版画作成)も春季日課に引き続いて取り組みました。多色刷りに挑戦したり、より大きくて細かい作品に挑戦したりと春からの積み上がりが感じられる様子が見られました。これ以外にも行事として、海水

浴やグループでの園外活動(高校野球の観戦、児童館の利用)、おやつ作りも行いました。

海水浴や児童館の利用は、夏の思い出になったり、地域の施設を利用して楽しむ経験ができたりと、有意義な時間になったと感じます。何より楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿や表情が印象的でした。児童館の利用にあたっては、他の利用者の方に迷惑をかけないか、マナーを守って利用できるか心配していた気持ちもありましたが、それについても普段通りか普段以上にしっかり振舞えており、良い経験になったのではないかと思います。

(稲垣)



### 夏季日課(女子寮)

今年の女子寮の夏季日課は作業に追われた日課になりました。改築の関係で空いた敷地を開墾して蕎麦畑の造設すること、寮前敷地に花壇を造設することが日課中の目標として毎日作業に取り組みました。

蕎麦畑の開墾は耕運機で耕し、草や埋まっている石の除去から始まります。耕せば耕すほど石や草が出てきます。気の遠くなる作業です。肥料や堆肥を混ぜてさらに耕します。耕運機の振動で手に豆ができる程、耕運機を動かし続けました。出来上がった畑に蕎麦を植え、数日後には蕎麦の目が出てきたのを見つけた時は子どもたちとめちやくちや喜びました。しばらくすると蕎麦畑一面が蕎麦の白い花が覆いとでもきれいな光景でした。





蕎麦畑の後は花壇の造設です。こちらにも開墾なので、耕運機をかけて石や草を取り、堆肥、肥料を混ぜて植物が育つ環境を作ります。続きまして花壇用に購入したブロックを花壇の周りに傾き、高さ等に気をつけながら並べ、モルタルで固定します。不慣れな作業ですが、日に日に効率的に作業を進められるようになっていきました。ハボタンとストックを植えて冬前までに咲かせようと計画していましたが、土壌の関係で水が溜まりやすいことが判明し、現在も改良中で完成には至っていない状況です。今後改良し、春には花壇をチューリップで埋め尽くすことが次の目標です。女子寮は子どもが3名しかいない中で、これだけの作業を終えられたのは子どもたちの頑張りです。作業に追われた40日間でしたが、毎日が忙しく楽しく過ごせました。今の子どもたちが作った蕎麦畑、花壇が今後入所してくる子どもたち大切に引き継がれていくことを願います。

(井澤)

## 壮行会

2年ぶりに全国大会への出場が決まり、大会前に壮行会が行われました。監督から、選手一人ひとりに番号付きのユニフォームとエナメルバッグを手渡されました。その後、園長先生と監督から、激励の言葉をいただきました。選手達の様子は、少し緊張感を持ちつつも、目の奥に熱い闘志を燃やしていました。



壮行会が終わわり、お昼の時間には、カリカットさんからボリューム満点のカレーがふるまわれました。児童、職員とも団らんを楽し

み、カレーに舌鼓を打っておりました。大会に向けて、一丸となつて戦う気持ちを高め、また、皆の大会への英気を養う良い機会となりました。

カリカットさんもお忙しい中、我々のために多くの準備と労力を割いていただき、まことにありがとうございました。(山崎)

## 立山登山

野球の全国大会からおよそ一週間後の九月八日、二年ぶりの立山登山を実施しました。前日から天候が危ぶまれた中でしたが、無事登頂し、また下山することができました。体調不良の児童や体力的に心配な児童は万が一を考えて一の越以降の登山は断念しましたが、それ以外の児童は一步一步足元に、そして一般の登山客に迷惑が掛からないように気を付けながら登りました。

山頂では途中から小雨が降り、残念ながら景色も遠くまでは見渡せませんでした。持参したお弁当を美味しく食べていました。下山中も二十分程度雨に降られた時間がありましたが、ガイドの

石黒さんの話をよく聴き、足元が滑りやすい中でも安全に室堂まで降りることができました。(荒木)



### 【子どもの感想】

今回の登山では生態系の大切さを知り、一つ一つの動植物は守られていて一つ絶滅しただけでも大変なことなんだと感じました。なので自分も動植物を大切にしたい。未来の人が見られるようにしていきたいです。(NM)

ちよつと大変だったけど頂上からちよつと晴れたので嬉しかったです。帰りは雨で滑るけど頑張っておりました。嬉しかったです。また次の頂上目指して頑張ります。

### (TR)

頂上についてお昼を食べました。

初めは、登りより下りの方が楽化  
と思つたら、下りの方が大変でし  
た。滑った勢いを止めて歩かない  
といけないのが大変でした。(T  
R)

## 海岸清掃

毎年恒例となつている海岸清掃。  
今年も、6月と9月に行いました。  
毎回たくさんのごみの量に驚かさ  
れますが、根気強く、一生懸命に  
ゴミを集める子ども達を頼もしく  
感じる瞬間でもあります。

無人ボックスの会の方々に協力  
していただく事も恒例となつてい  
ます。

一番の恒例は、子ども達へのア  
イスクリームの差し入れをいただ  
くことで、子ども達も楽しみにし  
ています。いつもありがとうございます。  
(佐藤)

## ほたるいかマラソン

十月九日(日)ほたるいかマラソ  
ンが開催され、児童十一名が参加  
しました。

野球日課が終了した九月から本  
格的にランニングを始め、晴れた

日には海岸沿いや学園内のトラッ  
クを走り、雨の日には体育館でク  
ーパー走や基礎トレーニングを行  
い、日々体力づくりに励んできま  
した。

結果は、児童四名が入賞し、そ  
のうち一名は小学生女子の部で一  
位の成績を修めました。また、そ  
の他のほとんどの児童が自己ベス  
トを更新することができ、これま  
での努力と成長を実感できました。

児童の作文より、「つらかったけ  
れど練習をやったことを思い出  
して走ると楽だった」「前半は力を抜  
いて前を向いて走れた」と日々の  
練習がいきたくことを実感していま  
した。

また、「駅伝に向けてベストタイ  
ムを出す」「自分に勝つことを目標  
にやり切りたい」とマラソン日課  
を頑張った自信から、次に向けて  
前向きに取り組む姿勢がみられ、  
今後目標をもって自分の課題に  
挑戦してほしいです。(城戸)

## 富山学園駅伝大会

十月十八日に、しんきろうサイ  
クリングロードをコースとして駅  
伝大会を開催しました。児童生徒

と職員が四チームに分かれ、全長  
十五・五キロメートルの距離をた  
すきをつないで走りました。

子どもたちは野球日課が終了し  
た九月から本格的にランニングを  
始め、学園内のトラックや海岸沿  
いを繰り返し走り、力を付けてい  
きました。駅伝大会に先立って行  
われた滑川ほたるいかマラソンで  
は、多くの児童生徒が上位に入賞  
する活躍をみせました。

駅伝大会当日、雨がぱらつく天  
候でしたが、子どもたちは緊張し  
ながらも、記録の更新やチームの  
勝利に貢献しようとして全力で走り  
ました。前方の選手との差を少しで  
も縮めようと歯を食いしばりなが  
ら走る姿、力を使い果たし、ゴー  
ルと同時に倒れ込む姿、沿道から  
声の限り応援をする姿、たくさん  
のひたむきな姿にとっても感動しま  
した。

子どもたちにとって、駅伝大会  
に至るまでの道のりは決して平坦  
なものではなく、つらく苦しいこ  
ともあったと思います。「走るこ  
と」を通して学んだ「目標の達成  
に向かって努力し続けること」は  
今後の運動や生活に必ず生かすこ  
とができると思います。(松永)

## 【子どもたちの感想】

・僕は、アンカーの第五区を走り  
ました。先生、先輩、仲間が頑  
張ってつないだたすきはとても  
重く感じましたが、その思いを  
無駄にしないために全力で走り  
ました。結果は自己ベストを更  
新することができました。苦し  
い日も楽しい日もありましたが、  
本番で自分の力を出し切ること  
ができてよかったです。

・走ることは得意ではありません  
が、チームのために頑張ること  
ができました。結果は二位でし  
たが、勝ち負けよりも一人一人  
が今まで積み重ねてきた練習の  
成果を発揮できてよかったです。

## 善意を寄せてくださった方々

- ・生け花 毎月 (長崎様)
- ・カレーランチボランティア・  
コーヒー贈呈 八月
- ・アイスクリーム・菓子贈呈 (カリカット)  
六月・十月
- ・菓子贈呈 十月 (澤田グループ)
- ・(無人ボックスの会 俣本様)

《編集後記》

コロナがなかなか終息に向かわない中ではありますが、少しずつ行動制限も緩和され、学園行事も予定通り行うことが出来、子ども達もエネルギーに過ぎています。

これからも多くの皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願ひします。

(佐藤)